

編集後記

- 平成 23 年新春号をお届けします。若狭会長の新年挨拶に岡山県華僑・華人総会会長の劉勝徳様にお言葉をいただきました。劉先生は岡山在住の中国の人々を代表して、日中友好の絆を深めるべき岡山で先頭に立って活躍なさっています。益々のご活躍を期待しています。
- 香川県（讃岐国）一宮田村神社の池田博文宮司より、古代には岡山・香川が身近であったことを教えて頂きました。是非今後とも交流を深めたいものと願っています。
- 吉備津彦神社の社家末裔の 79 代当主である大守隆様（当会の会員）は A P E C の経済委員会議長として今回の大きな国際会議では、マスコミ報道の陰で活躍のことに敬服し益々の活躍をお祈りし再会を楽しみにしています。
- 今回から樋口氏の「歩き遍路の旅」シリーズが連載されます。氏は歩き遍路で 4 順目を実行中です。戴いた原稿は徳島分だけでも相当の量になります。今回は初回なので「巡礼のマナー」などが入りましたので、お寺の数は少なかったのですが、初心者には参考になったと思います。これからの連載を楽しみにして下さい。
- 吉備槌太郎（本松一郎）氏は自身のご先祖を紐解きながら、身近な興味深い郷土史を紹介戴きました。研究成果のネタを随分お持ちですから次号も引き続き登場の予定です。
- 井上秀男氏は父譲りの考古・歴史・民族系の資料を各地の博物館などの資料と照合され緻密な研究成果を紹介戴きました。何しろ古文書が相手ですから、筆者は丁寧な対応をなさっていますが、編集のレベルで、文字の読み方・活字変換などの誤字・脱字・誤読もあるやも知れません。皆様よりご指摘ご指導を戴くと嬉しく存じます。
- 延原氏も丸谷氏も毎号寄稿戴いています。延原氏からはユニークな視点で身近な神社にそれとなくただずむ「立石」を特有の検証をして頂きますと、「さもあらん」と信じたくなります。丸谷氏の小さな社に掲げられた奉納額に騎馬民族の末裔の残照を発見されたことも感銘いたしました。
- 不肖わたくし山崎も弥生終末期、吉備国の文化の高揚は日本列島の中で一番進化していて、ヤマト政権の「生みの親」的役割を果たしたことを述べてみました。次号は吉備の巨大古墳が何故に記紀などに残っていないのかその謎に挑みます。
- 若狭哲六会長は、新刊書の草稿に取り組んで日夜奮戦中の様子です。その成果を多くの仲間が待っています。楽しみなことです。先生頑張って！！！！
- 仮称“きび”考の原稿は主に会員の皆様に投稿・寄稿をお願いしていますが、“きび”考を読んで戴いた方や、お知り合いの方でこの会の主旨に合う方の多彩な投稿をお薦め戴ければと思います。また内容も会員の皆様の「近況報告」「エッセイ」でも勿論「研究成果」など、どしどし投稿をお待ちいたしています。
- 新年度は、新しい企画・活動を検討中です。総会を兼ねた集まりもあります。再会を楽しみにしています。今回から文字の大きさを 9 ポイントから 10.5 ポイントに致しましたが、如何でしたか。編者

仮称“きび”考 新春号 2011(平成 23)年 1 月 1 日発行

発行 日本先史古代研究会
会長 若狭哲六 岡山県備前市東片上 771
事務局 岡山県岡山市中区桑野 504-1 山崎泰二方
電話＝086-276-6654 FAX＝086-276-2241
メール＝top@bosaisystem.co.jp
編集委員 井上秀男 延原勝志 樋口俊介 本松一郎 山崎泰二